

「シリーズ①」子ども現実から出発した学校を

新指導要領の教科書通りに教えたら…

小学校2年生時計の単元では、「午後2時20分の50分前の時刻は？」などの問題が出てきます。「正午」を「午後0時」と言ったり「12時」と言ったりします。十二進法、二十四進法？、六十進法？？十進法が分かったばかりの2年生は混乱します。

短針と長針の目盛りの読み方もクラスで大きな差が出ます。ベテランの先生も、「それまでの単元ではみんな90点以上を取っていたのに、時計単元はガクンと落ちます。」と嘆きます。

ベテランが工夫しても、若手が情熱を傾けても、多くの子が理解できない内容だと現場から声が上がっています。こうした教科書の問題点を職場で地区教研で出し合ひましょう。



新指導要領を乗り越えて…

1年生の算数の教科書では、二ケタの計算がありますが筆算は出てきません。2年生で登場です。しかし、どの子も理解できるようにと、学年で相談して工夫しながら筆算を教えている学校もあります。

そうした学校の2年生の担任は、「1年生から筆算に慣れていたので、繰り上がりのある計算や、位取りでつまづく子はいませんでした。」と言います。

先の「時計」とは大違いです。子どもたちは自信を持って取り組みます。

学習指導要領の枠を絶対視するのではなく、子どもの理解の実態から出発する教育実践の工夫が求められます。

「ゆとり教育」と言われた学習指導要領の数学の作成責任者が、「この学習指導要領通りではなく、先

生方は、教科書よりもっと深く広く工夫して教えて下さい。つくった私が言っているのですから…。」と、文部科学省の担当者に拝み倒されて納得できない学習指導要領をつくったとシンポジウムで語ったことがあります。

「ゆとり教育の見直し」「基礎基本の重視」などと言いながら、「進んだ子をもっと先へ、遅れた子はそれなりに…」と、格差を広げると指摘されている指導要領です。学校現場から日々の実践の苦悩と工夫を学校と社会に発信するシリーズのスタートです。

「原水爆禁止世界大会」広島 8月4～6日 「核兵器廃絶署名」とカンパのお願い

日本は、世界で唯一、殺戮を目的に原子力を悪用した核兵器の被害を受けた国です。被爆の事実と被爆者のその後の歴史を学びましょう。今年も、「ノーモアヒロシマ・ナガサキ」を全世界に訴える原水爆禁止世界大会に教職員代表団を送ります。（昨年度は青年中心に10名）

ニュース表面の国連本部の反核署名のモニュメント展示開始の記念式典では潘基文国連事務総長がスピーチをされました。職場で署名・カンパを呼びかけるので協力お願いします。あなたの署名をNYの国連本部に届けます。（個人負担1万5千円で参加する代表団の参加者募集中）
お申し込みは、支部事務所へ。



教育センター教育相談（秘密厳守）

教育実践上の悩みや職場で困ったことなどについて、随時相談を受け付けています。

TEL 042-384-2941

火・水・木・金の午後4時～午後7時

相談員 知識明子、山川政志、小林成子



★北多摩東支部は、狛江市長選挙で、矢野民主市政の継承めざす田辺良彦さんの推薦を決定しました。